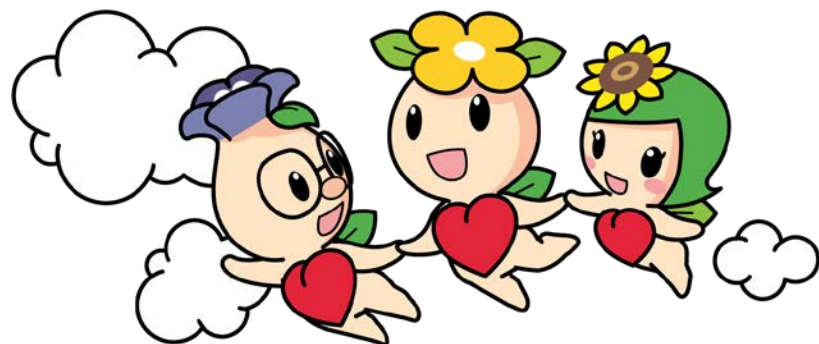


防災教育・周知啓発WG 「災害ボランティアチーム」

第3回会議 「避難所運営の実態について」



倉敷市人権推進室 主幹 三谷潤二郎
倉敷市選管事務局 主任 高槻直樹

真備地区浸水状況

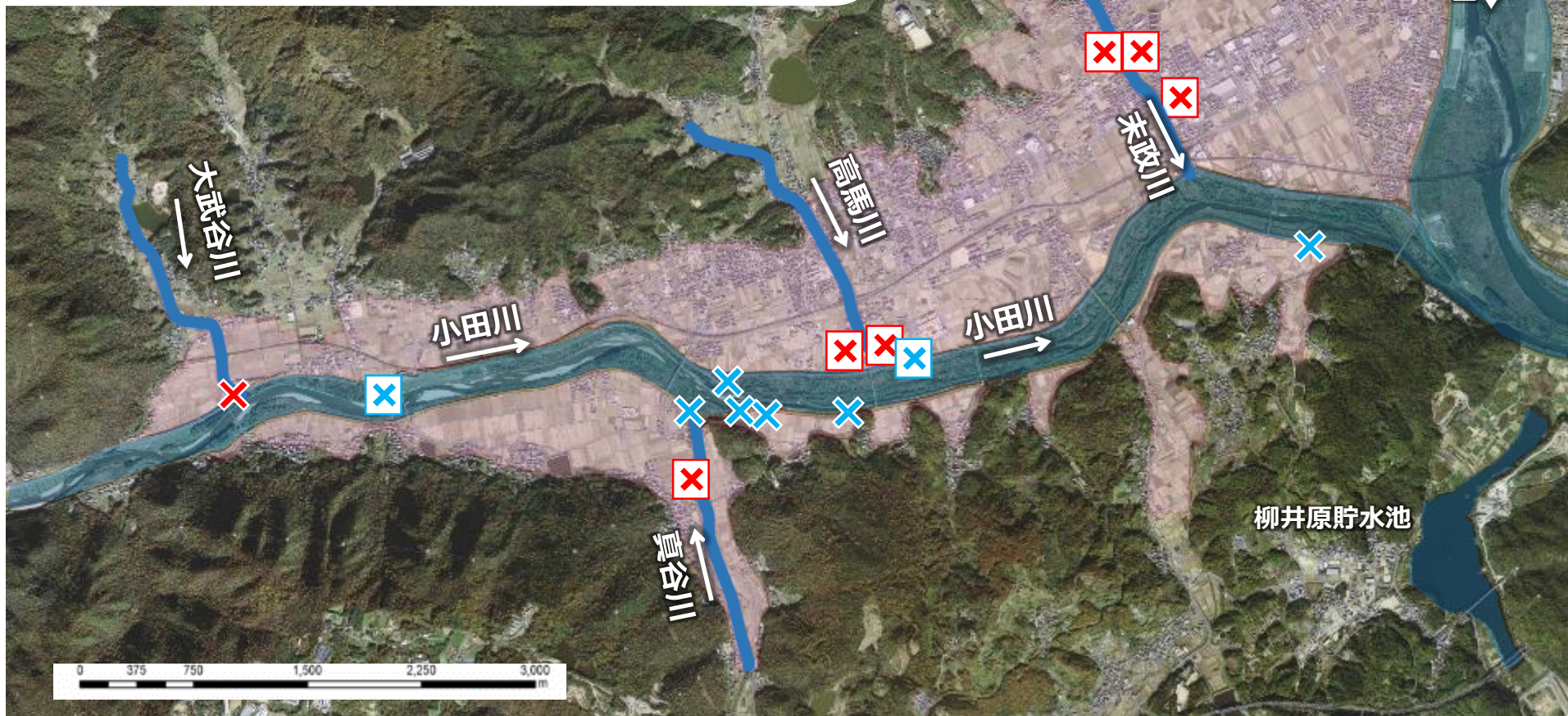
浸水区域

決壊箇所（国）2箇所

決壊箇所（県）6箇所

河川被災位置（国）6箇所

河川被災位置（県）1箇所



おだがわ

すえまさがわ たかまがわ まだにがわ

国管理河川の小田川をはじめ、県管理河川の未政川・高馬川・真谷川において堤防が8か所で決壊・7か所で一部損壊・損傷し、約1,200ヘクタールが完全に水没した

市内に避難所を開設



7月7日には通常200人規模の避難所に
2,000人以上の避難者



保健医療チームによる災害時公衆衛生活動



避難所環境の向上のため間仕切りを設置



マネジメントの実態（食事編）

- 発注：倉敷市
- 配付・片付：倉敷市、岡山県、応援自治体職員、N P O

※ 弁当の配り方等のノウハウが自治体には薄く、試行錯誤していた中、N P Oや専門家からの助言やクレームに対してN P Oの方が間に入っていたことがありがたかった。

※ 自主避難所ではN P Oの存在が大きかった。

※ アレルギー食やペットフードなどはN P Oの協力や個人の寄付が、大きかった。

マネジメントの実態（職員の持つジレンマ）

朝：おにぎり（2種類） / 昼：菓子パン（2～3種類） 夜：弁当（数種類）



ほとんど変わらないメニュー

衛生管理と配食数の関係上、上記の対応しかできなかった。

- 必要な人に配布するための発注調整、配食管理の難しさ。
- 炊き出しは避難者にとって本当にありがたかったと思う。
一方、担当者は炊き出しが、怖い時もあったと思う。
- いずれ、避難所を出ていく避難者が、ずっと弁当を食べ続けることに葛藤があった。
（自分で料理するのがしんどくなるのでは・・・）

マネジメントの実態（衛生編）

トイレ

- 献身的にトイレ掃除も進んでしてくれた、N P Oの方々に多くの職員が心を打たれた。
- 避難者に行政が協力（トイレ掃除等）を呼びかけても押し付けになってしまう。N P O発信の場合は、立場が近い&外部の支援者ということもあり協力者を募りやすい。

寝床

- 早い段階で段ボールベッドは入ったが、自治体には設置のノウハウがなかったため、N P Oや専門家の協力がなければ円滑に設置できなかった。
- 初期は、避難がここまで長期化するとは考えておらず、段ボールベッドの搬入で目が覚めた。

マネジメントの実態（要配慮者）

- 避難所担当職員が入所者カード等をもとに情報管理や対応は行っていたが、日々の対応に追われ、十分な管理が難しかった。
- 保健師チームが、毎日巡回し聞き取りもしていたが、マンパワーが不足しがちであった（特に初期～中期）
- 避難所によっては職員よりNPOのほうが、要配慮者の情報を持っていた場合もある。また、身近な存在として行政に言いにくいことも聞き取ってくれた。
- 活動記録をNPO等の方が避難所ごとに落としていく、交換日記方式が良かった。
- 女性や子どものケアは倉敷市中心で行うことができていた。
- 中期、終期、倉敷市では、主に福祉的避難所という位置づけの避難所で要配慮者対応（高齢、障がい等）を行っていた。

避難所業務を通して感じたこと

- 混乱している現場で現場の職員を教え、導いてくれたのは、地域の**防災士**や**支援に長けたNPO職員**の方々（感謝）
- 被災者が一番心を開いてくれるのは民間支援者
 - 市 = 仕事
 - NPO = 使命
- 今回、支援に入ってくれたNPO（特に中間支援）の方々の否定や押し付けではなく、寄り添い、導くかたちでの支援ください。（その立ち振る舞いは、素晴らしかった。）
- **NPOと運営者（市）のコミュニケーションが、絶対必要。**
 - NPOの人達がどんなに良いことをしていても、運営者（市）がそのサポートや取組みについて分かっていない状態は、絶対ダメ

避難所内の手作りボード（下から順に愛されている）



知っておいてほしい。市役所（行政）は…

- **びっくりするほど減点主義です。**

行政にとって良くなかったことをいつまでも覚えています。

- **ご想像通りの縦割り組織です。**

まとまった情報を持った職員に出会うことが難しいです。

- **熱量のある職員ばかりではありません。**

しょっちゅう心が折れます。

- **NPOのことをあまりよく分かっていない人も多いです。**

オフィシャル感を大切にしてください

避難所で噴出する課題

- 避難所間格差
- 本部がない避難所がある。（被災者のスペースとは分ける）
- 市職員が雑用もこなし，応援職員を活用できていない。
- N P Oなどの支援団体と運営方針で対立する。
- 市職員がコロコロ変わり、引継ぎが十分でない。
- 掲示物の更新が遅い。（古い情報が残されがち）
- 避難所と本部の情報共有が機能していない。（情報不足）
- 避難所の横連携ができていない。
- 避難所にいない在宅避難者への配慮不足
- マスコミ，物資対応等を仕切る人がいない。
- 炊き出し団体の減少と重複
- 支援物資の管理・支給のノウハウ不足
- 世代や生活環境による生活リズムの違い
- 配食管理

避難所リーダーの設置（受援体制の強化）

リーダーの 役割

- 本庁と現場の情報共有
- 応援自治体、N P Oとの連携窓口
- 問題の早期解決
- 住民の生活再建（自立）支援強化
- 現場職員の負担軽減

リーダーに 必要なもの （資質）

- コミュニケーション能力
- 広い視野
- 適度な責任感
- 大きな使命感

N P Oの方たちと関わって思ったこと

行政のできることは、ほんとうに僅か

- 公平にしかできない**行政**。
→ 隙間を埋めてくれたのがN P O
- 住民に一番近い存在の**民間支援者**
- 行政の味方をしてくれる**貴重な存在**
→ 正しいことを正しいと言ってくれる存在
- 支援範囲は**広大**（ペット、発達障害）
- 関係は、被災後も続く

N P Oに期待すること

N P OのことはN P Oに聞きます。

- N P O同志の横の連携を密に
- 安全・安心の関係づくり

普段から私たちとの関係性構築を

- 研修会の参加
- 協定の締結

➡ 普段の活動がオフィシャル感につながると思います

被災自治体の職員としてひとこと

【これからは】

民間支援が絶対必要な存在
という認識が必要

支援者も受援者も・・・

ご支援ありがとうございます！

